

ふるさと歴史館第34回企画展

# 柿岡古墳群

令和5年

10月4日 ▶ 12月27日

月曜休館（祝祭日のときはその翌日）

午前10時～午後4時30分

入館無料

## 石岡市立ふるさと歴史館

茨城県石岡市総社 1-2-10 石岡小学校敷地内

電話 0299-23-2398

下図：『常陸丸山古墳』（後藤守一・大塚初重 1957）挿図第五「柿岡古墳群分布図」（大塚初重・和子作成）

## 柿岡古墳群

### ■目次

はじめに	1
I 丸山支群	2
II 佐久支群	8
III 長堀支群	9
IV 柿岡町支群	10
V 「豪族居館」と古墳の変遷	11

### ■例言

本冊子は、令和5年(2023)年10月4日から12月27日に開催する石岡市立ふるさと歴史館第34回企画展に際して作成したものです。

展示および本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課(谷仲俊雄)が行いました。

展示で使用したイラストは、古墳擬人化絵師 ヨスミナミ氏に提供いただきました。

展示にあたっては、『常陸丸山古墳』(後藤守一・大塚初重1957)を参考にしました。



丸山古墳  
©ヨスミナミ

# 柿岡古墳群

昭和27年11月、東日本の古墳研究にとって記念碑的な発掘調査が行われました。石岡市(当時は新治郡柿岡町)における「丸山古墳」の発掘調査です。

地元柿岡町の依頼を受け発掘調査を行ったのは、元皇室博物館(現在の東京国立博物館)鑑査官で、明治大学教授のごとう しゅいち後藤守一氏。そして、当時同大学の助手であったおおつか はつしげ大塚初重氏です。

調査の結果、丸山古墳は「ぜん ぼう こう ぼう ふん前方後方墳」という形であることがわかりました。前方後方墳とは、前方後円墳の「円形」の部分が「方形」のもの。当時はまだ発見例の少ない珍しい形でした。この調査をきっかけに「前方後方墳」は、大塚氏の研究テーマとなり、昭和38年には「前方後方墳の研究」で博士号を取得します。そして、東日本における古墳時代研究の第一人者として研究、そして普及啓発をけん引しました。

また、昭和32年に発行された丸山古墳の調査報告書『常陸丸山古墳』には、丸山古墳や一緒に調査した丸山第4号墳の調査報告だけでなく、「柿岡古墳群」と名付けた周辺の古墳群の詳細な踏査報告も収録され、古墳群ひいては当時の社会のなかで丸山古墳の位置を明らかにしようという意欲的なものでした。

調査から70年余りが経ち、当時確認されていた古墳でも消滅してしまったり、存在がわからなくなってしまった古墳もあります。その一方で、古墳被葬者の住まいと考えられる「豪族居館」が発掘されています。

今回の企画展では、「柿岡古墳群」の各古墳や豪族居館の調査成果について紹介します。

# 柿岡古墳群の分布と構成

「柿岡古墳群」は、丸山古墳の発掘調査報告書『常陸丸山古墳』において、丸山古墳を中心とした南北約2.5km、東西約2kmの範囲に群在する古墳群として設定されました。地形からさらに丸山・佐久・長堀・柿岡町という4つの支群に区分されました。当時の分布調査では丸山支群23基、佐久支群4基、長堀支群9基、柿岡町支群4基の総計40基が確認されましたが、現在では開発によって消滅してしまったり、存在がわからなくなってしまった古墳があります。

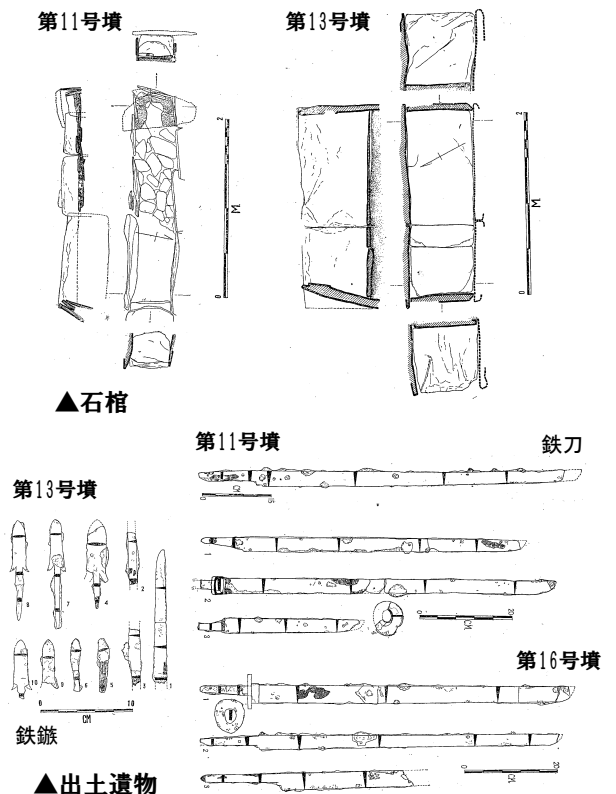
丸山古墳や長堀2号墳、佐自塚古墳などの古墳時代前期(4世紀)に築造された古墳(前期古墳)が多く存在する「常陸屈指の前期古墳の集中域」として注目されています。そのほかにも、茨城県指定文化財である鹿形埴輪が出土した柿岡第4号墳(柿岡西町古墳)や横穴式石室をもつ丸山第4号墳(二子塚古墳)など、古墳時代後期(6世紀)に築造された古墳(後期古墳)も多く存在しているのが特徴です。

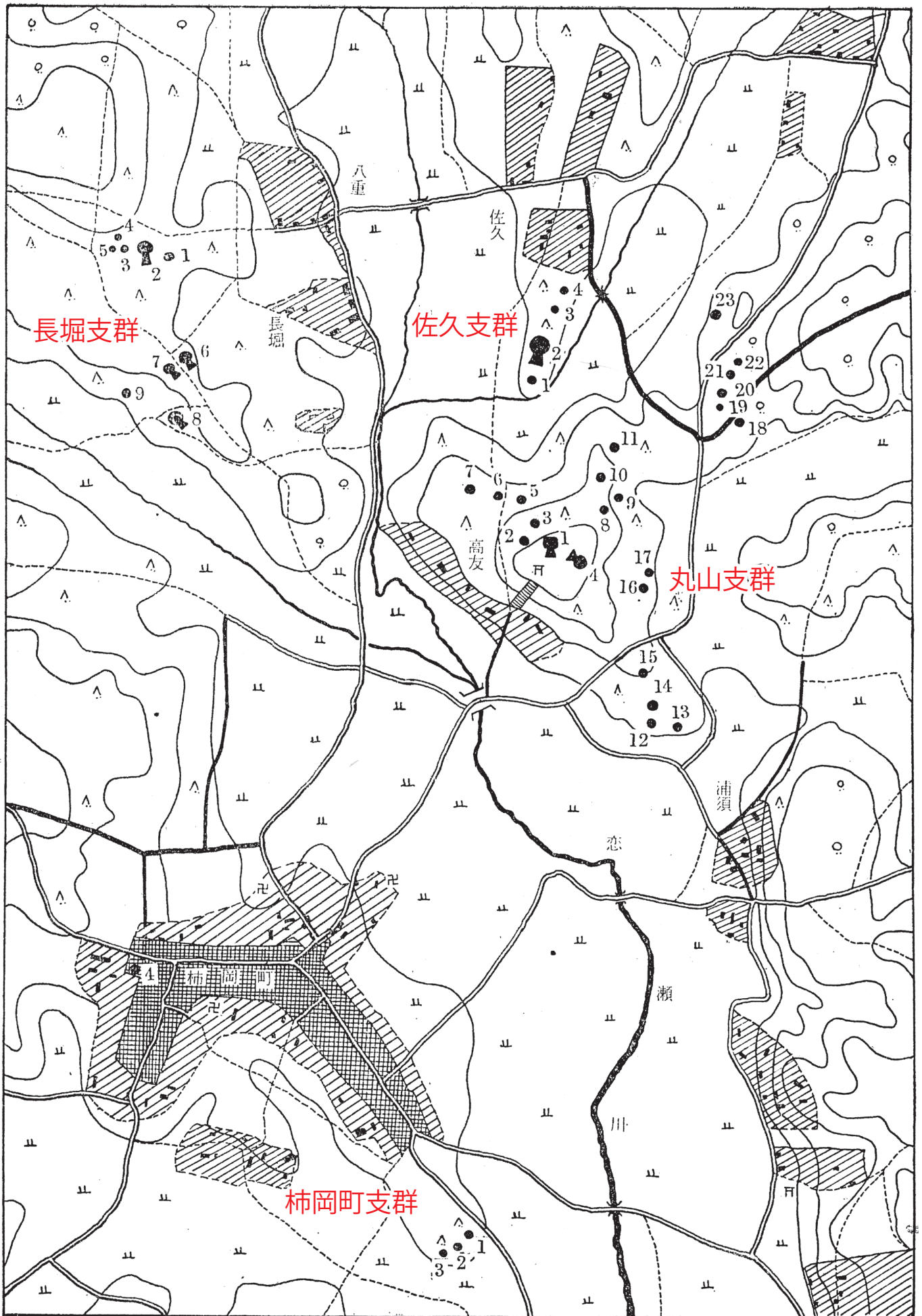
## 丸山支群

丘陵頂部に前方後方墳の丸山古墳(丸山第1号墳)と前方後円墳である丸山第4号墳(二子塚古墳)が存在しています。この2基を仰ぎ見るように、中小の古墳が存在しています。

各古墳が築造された時期は、丸山古墳が古墳時代前期(4世紀)、丸山第4号墳が後期(6世紀)です。そのほかの古墳は詳細のわからないものが多いですが、石棺や出土遺物等からは古墳時代後期から終末期(6~7世紀)に築造されたと考えられます。

丸山古墳が築造されてから、そのほかの古墳が築造されるまでには150年程経過していることとなります。支群内で最古かつ最大規模の丸山古墳の被葬者を「始祖」と仰ぎ、その関係性を主張(利用)したのが丸山第4号墳の被葬者で、そのほかの古墳も「始祖墓」を仰ぎ見る位置に築造したのかもしれませんが。





▲柿岡古墳群分布図

『常陸丸山古墳』(後藤守一・大塚初重 1957) 挿図第五「柿岡古墳群分布図」(大塚初重・和子作成)

柿岡古墳群一覽

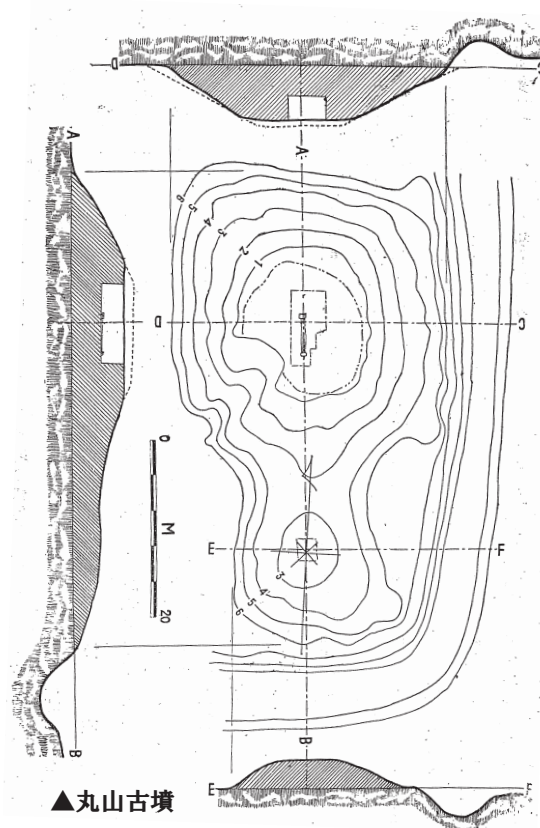
支群	古墳名	墳形	墳丘長(m)	調査歴	時期	備考
丸山支群	丸山第1号墳 (丸山古墳)	前方後方墳	55	1952年発掘	前期	粘土床、鏡・玉類・銅鏃・鉄刀・鉄剣・鉄槍・刀子
	丸山第2号墳	円墳	不明			
	丸山第3号墳	円墳？	10	1952年発掘		
	丸山第4号墳 (二子塚古墳)	前方後円墳	36.5	1952・54年発掘 2007年測量	後期	横穴式石室、埴輪・須恵器 (鏡・玉類・板金・金環・剣・鏃・鏃・馬具・冠?) ※()は『新編常陸国誌』による
	丸山第5号墳	円墳	20			
	丸山第6号墳	円墳	18			
	丸山第7号墳	円墳	19			石棺？
	丸山第8号墳	円墳	12			
	丸山第9号墳	円墳	不明			鉄刀1？
	丸山第10号墳	円墳	15	1952年発掘		箱式石棺、鉄鏃
	丸山第11号墳	円墳	15		後期	箱式石棺(造付枕状粘土施設あり)、鉄刀
	丸山第12号墳	円墳	11.5			
	丸山第13号墳	円墳	11.5		後期	裾部に箱式石棺、鉄刀3・刀子1・鉄鏃7
	丸山第14号墳	円墳	28			埴輪(円筒・人物)？
	丸山第15号墳	円墳	14			
	丸山第16号墳	円墳	不明			箱式石棺、鉄刀4・鉄鏃4
	丸山第17号墳	円墳	15			
	丸山第18号墳	円墳	不明			石棺？
	丸山第19号墳	円墳	3			
	丸山第20号墳	円墳	13.5			
	丸山第21号墳	円墳	8.5			
	丸山第22号墳	円墳	2.3			
	丸山第23号墳	円墳	20			
佐久支群	佐久第1号墳	円墳	15.5			
	佐久第2号墳 (佐自塚古墳)	前方後円墳	58	1963年発掘	前期	粘土柳、埴輪・土師器・玉類・櫛・刀子
	佐久第3号墳	円墳	15			
	佐久第4号墳	円墳	5			
長堀支群	長堀第1号墳	円墳	27.5			
	長堀第2号墳	前方後方墳	46	1972・2010年測量	前期	土師器(壺)
	長堀第3号墳	円墳	15			
	長堀第4号墳	円墳	15			
	長堀第5号墳	円墳	15			
	長堀第6号墳	前方後円墳	37			前方部削平
	長堀第7号墳	前方後円墳	32			粘土床？、前方部一部削平
	長堀第8号墳	前方後円墳	43		前期	現在の長堀6号墳。土師器(壺ほか)、前方部削平
	長堀第9号墳	円墳	15			
柿岡町支群	柿岡第1号墳	円墳	20			現在の下宿古墳群。消滅
	柿岡第2号墳	円墳	15			現在の下宿古墳群。消滅
	柿岡第3号墳	円墳	15			現在の下宿古墳群。消滅
	柿岡第4号墳 (柿岡西町古墳)	帆立貝形古墳？	37		後期	現在の柿岡西町古墳。埴輪
	和尚塚古墳	円墳	15			石棺？

# 丸山古墳

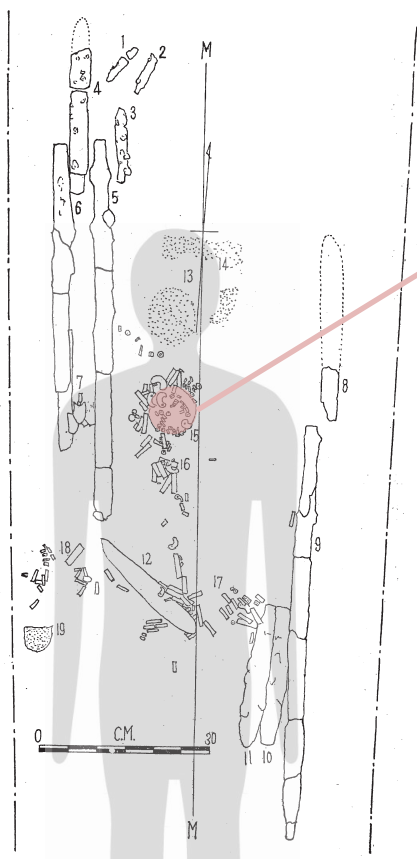
丸山古墳(丸山第1号墳)は、墳丘長55mの前方後方墳です。丘陵頂部の眺めの良い場所に立地しています。古墳の周りには中世の城館に伴う堀跡がめぐっていて、その見晴らしの良さを物語っています。

昭和27年の調査では、発掘調査に先立ち測量調査が行われ、「前方後方墳」であることが判明しました。当時前方後方墳は全国でも10例程度しか発見されていない珍しい形でした。また、発掘調査の前には、柿岡地磁気観測所により、「大地比抵抗測定器」による電気探査や、磁気探査が行われました。最新の技術を利用して、最大限の成果を得ようとする様子が見えます。

埋葬施設は、後方部の中央で発見されました。南北両端に粘土の塊があり、底面は薄く粘土を叩き固めた「粘土床ねんどしょう」と呼ばれるものでした。木材の破片はもちろん腐った痕跡もなく、突然副葬品が現れる状況だったことから、遺骸は直接粘土床の上に横たえられていた可能性があります。



▲丸山古墳



粘土床からは、青銅製の鏡や鏃、勾玉のほか、鉄刀や鉄槍、管玉、ガラス小玉が出土しています。左の13のあたりに骨粉がまとまっていたことから、頭骨があったと考えられます。北枕で埋葬され、胸の上に鏡が、左右両側には刀や槍が並べられていたようです。玉類は、もとは首飾りだったと考えられますが、バラバラに散らばっていることから、埋葬するときにわざと玉の緒(ひも)を切り離したのでしょう。

古墳擬人化絵師 ヨスミナミさんによる

丸山古墳擬人化キャラクター

# 丸山古墳

石岡市柿岡

前方後方墳

全長:55m

時期:古墳時代前期後半  
(4世紀後半)

鏡

内行花文鏡と呼ばれます。  
被葬者の胸元に背面を上にして  
出土しています。

角のあるデザイン

前方後方墳をイメージ。

小玉

丸玉・小玉合わせて  
138点出土しています。  
小玉は全てガラス製です。

3連の小玉

小玉数個が接続して出土。  
本来は1個ずつ離れていました。

勾玉・管玉

出土勾玉9個のうち  
6個が胸部から  
出土しています。

銅鏃

実用には不向きであるため  
儀式用の道具に用いられたと  
考えられています。

3つの勾玉

出土勾玉のうち3つは腰部から  
出土しています。  
腰部から出た勾玉は日常用として  
使われていたと考えられています。

© ヨスミナミ

【参考文献】

後藤守一 1957 『常陸丸山古墳』

石岡市「丸山古墳」『石岡市の歴史と記憶』

(<https://www.city.ishioka.lg.jp/rekishitokioku/meishokyuseki/page001398.html>)



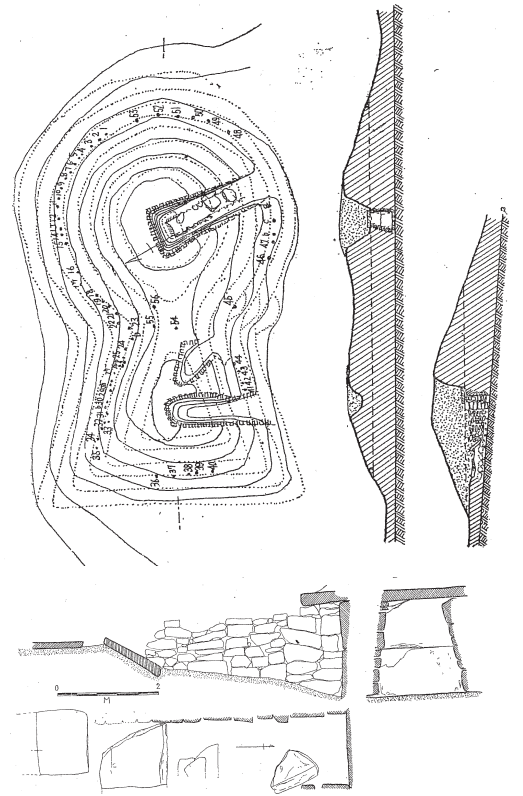
# 丸山第4号墳

丸山第4号墳(二子塚古墳)は、墳丘長36.5mの前方後円墳です。丸山古墳と同じく丘陵頂部に立地し、前方部を丸山古墳の後方部に向けています。

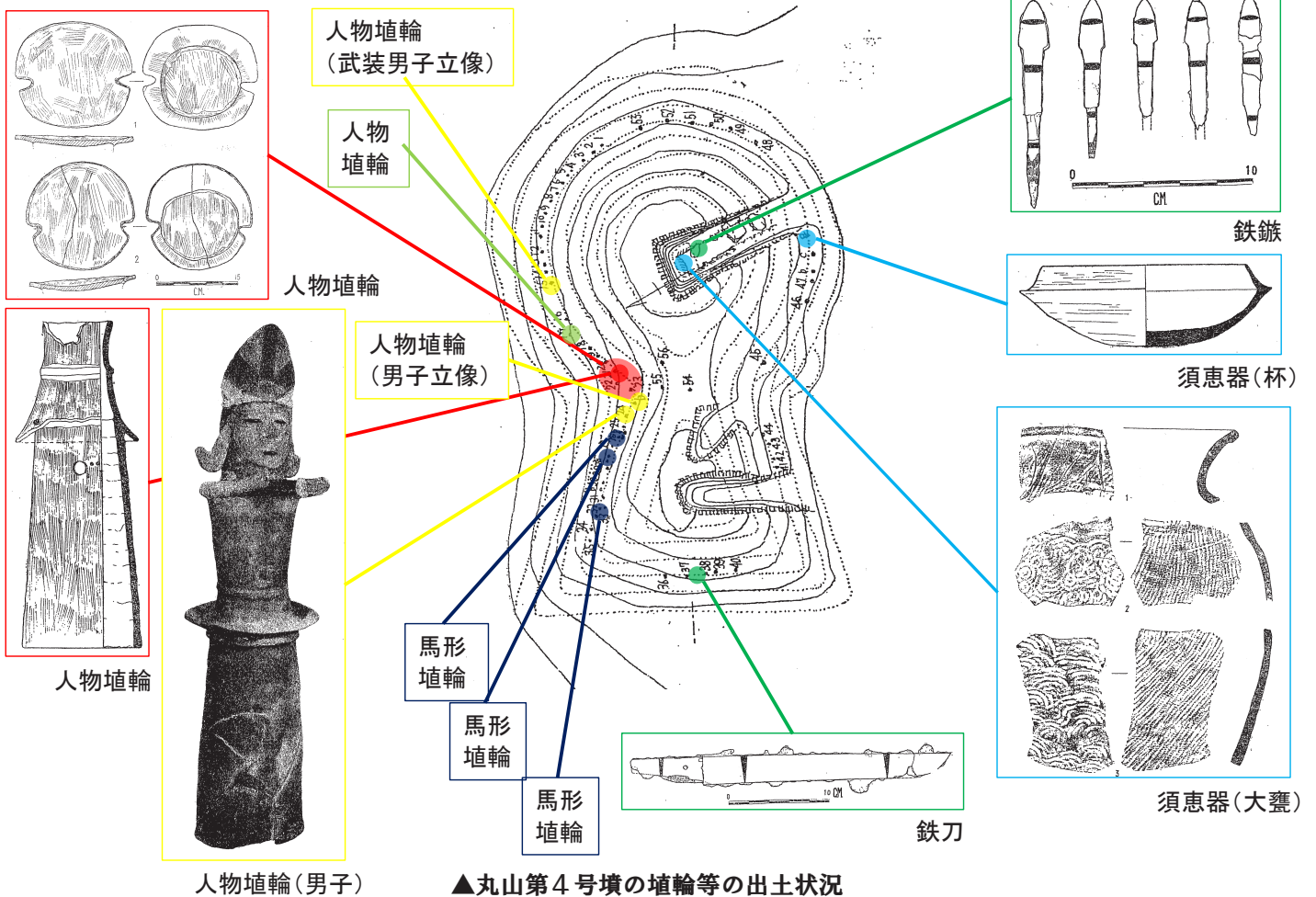
昭和27年の丸山古墳の調査終了後に墳丘の測量調査と石室の実測調査が、昭和29年に発掘調査が行われました。また、平成19年にも測量調査が行われています。

古墳の周囲には50本以上の円筒埴輪が平均80cmの間隔で立ち並べられていました。また、墳丘北側には人物埴輪(男女)や馬形埴輪も並べられていました。

埋葬施設は、後円部に「横穴式石室」が設けられていました。横穴式石室は、これまでの墳丘を上から掘り込む「<sup>たて</sup>竪穴」系の埋葬施設とは異なり、墳丘に横穴を掘り埋葬空間(石室)を設ける最新の埋葬方法です。丸山第4号墳の横穴式石室はこの地域で最古のもの。丸山第4号墳の被葬者は、当時の最新の埋葬方法を最初に採用した人物と言えそうです。



▲丸山第4号墳の墳丘(上)と横穴式石室(下)



▲丸山第4号墳の埴輪等の出土状況

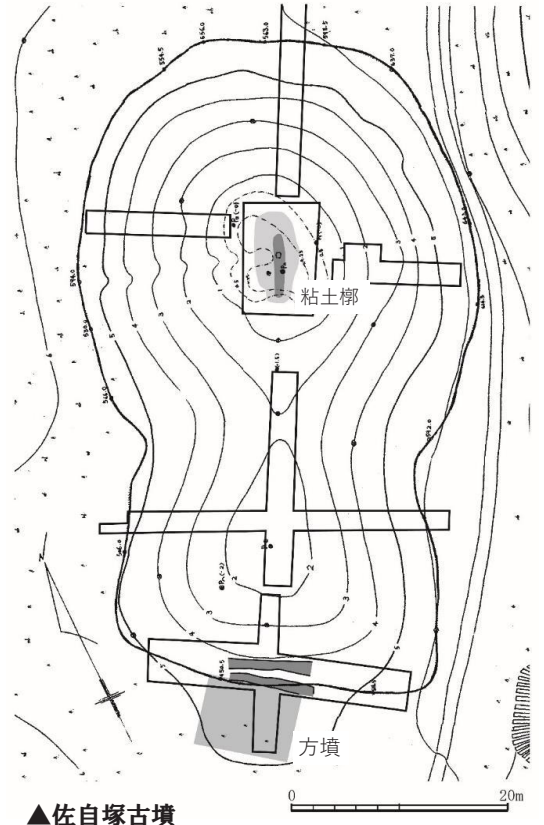
# 佐自塚古墳

佐自塚古墳(佐久第2号墳)は、墳丘長58mの前方後円墳です。昭和38年に発掘調査が行われ、丸山古墳に続く「王墓」と考えられています。

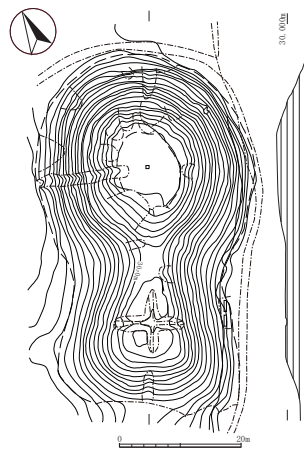
埋葬施設は木棺を粘土でくるんだ粘土槨。木棺の全長は6mを超える長大なものでした。古墳の形や規模、埋葬施設からは前代よりも力を伸ばした「王」の姿が想像できます。

しかし、副葬されていたのは、竹籬や刀子、勾玉、ブレスレットと考えられる玉類だけ。丸山古墳のような鏡はもちろん、武器類もありませんでした。古墳や埋葬施設の立派さと対照的な副葬品の少なさ—そこに佐自塚古墳の「王」の実像を探るヒントがあるのかもしれませんが。

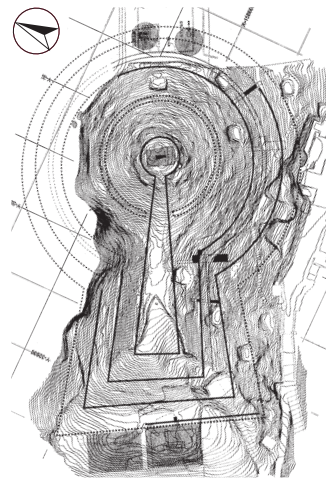
ところで、佐自塚古墳の前方部には「方墳」が接して造られています。このような例は、香川県の古墳の一部や大阪府松岳山古墳に見られます。佐自塚古墳と松岳山古墳は墳丘の形も似ていることから、佐自塚古墳の「王」は松岳山古墳の「王」と密接な関係にあったのかもしれませんが。



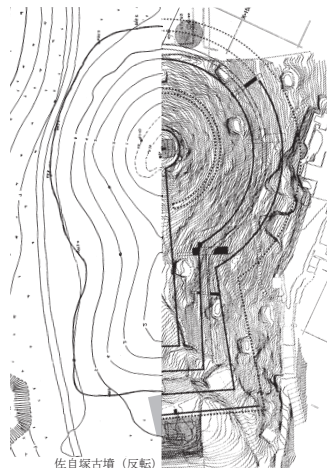
▲佐自塚古墳



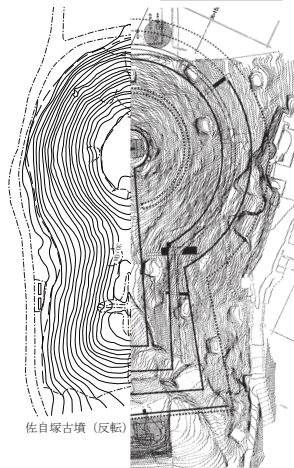
佐自塚古墳 (2012年測量)



松岳山古墳



佐自塚古墳 (反転) 松岳山古墳

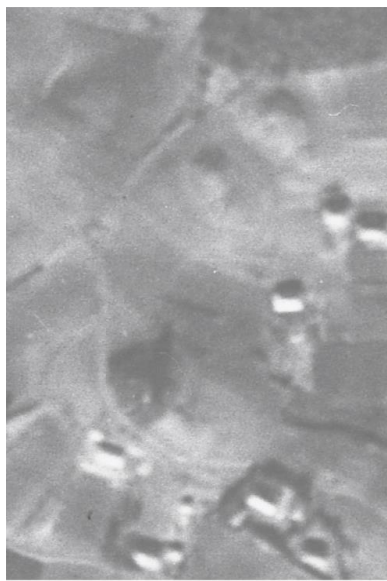


松岳山古墳

# 長堀支群

昭和47年の測量調査で前方後方墳と判明した第2号墳のほか、第6号墳、第7号墳、第8号墳が前方後円墳とされています。しかし現在では、第8号墳(現在の長堀6号墳)は後円部しか残っていませんし、第6号墳と第7号墳はどちらかと思われる残丘だけになっています。

昭和23年撮影の空中写真を見ると、第8号墳は現在も残る後円部の南東側に前方部と思われる高まりが観察できることから、墳丘長40m程度の前方後円墳と考えられます。墳丘からは二重口縁壺の



USA-R836-31 (昭和23年1月15日)



都市計画基本図

▲長堀第6～8号墳の空中写真と復元図

破片が採集されていて、柿岡古墳群のなかで最も古い古墳の可能性があります。

第6号墳、第7号墳も空中写真を観察すると、それぞれ墳丘長38m、35m程度に復元できそうです。「後円部」は方形にも見えることから、前方後方墳の可能性がります。

## 長堀第2号墳

長堀第2号墳は、『常陸丸山古墳』では墳丘長46mの前方後円墳とされていました。昭和47年に測量調査が行われ、前方後方墳と判明しました。また、平成22年にはより詳細な測量調査が行われています。

発掘調査は行われていないことから詳細な時期はわかりませんが、二重口縁壺もしくは壺形埴輪と考えられる破片が採集されています。

長堀第8号墳(現在の6号墳)のもの比べると少し新しいものと考えられることから、古墳時代前期(4世紀)で長堀第8号墳よりも少し新しい時期と考えられそうです。丸山古墳と同時期か少し新しい時期でしょうか。



▲長堀第2号墳

# 柿岡町支群

『常陸丸山古墳』では、第1～4号墳の4古墳が紹介されています。しかし、その時点で第4号墳はすでに消滅していました。また、第1～3号墳も現在では店舗や宅地になっていて、古墳の痕跡は確認できません。

昭和23年撮影の空中写真を見ると、南北に3つ並んだ古墳状の高まりが確認できます。これが柿岡第1～3号墳の墳丘と考えられます。北側の第1号墳では、高まりの周囲に高まりに沿った傾斜変換が認められます。周溝の痕跡と考えられます

各古墳の規模は、第1号墳が径約20mの円墳、第2・3号墳が径約15mの円墳と復元できそうです。

柿岡第4号墳は、丸山古墳の調査時にはすでに墳丘が残っていませんでしたが、開墾時に埴輪が出土していたことから古墳の存在が推測されました。その後、昭和39年には現在茨城県指定文化財になっている鹿形埴輪を含む埴輪が出土しています。この頃から「柿岡西町古墳」と呼ばれるようになります。

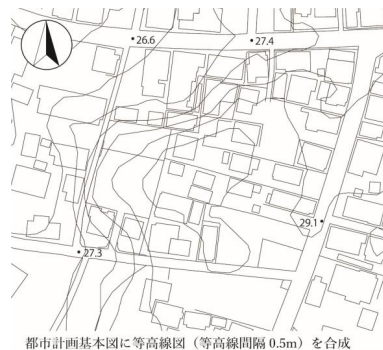
では古墳の規模はどのくらいなのでしょう。墳丘は残っていませんが、埴輪が出土した地点の東側は、わずかですが高まっている印象を受けます。

また、昭和23年撮影の空中写真を見ると、径20m程の樹木で覆われた箇所が見えます。ただ、周囲に接するように建物が存在していることから、古墳ももとの形や規模ではなかったと考えられます。

これらを照らし合わせてみると、柿岡第4号墳(柿岡西町古墳)は、径30mの円墳、もしくは南側に短い前方部がつく帆立貝形古墳だった可能性が考えられます。



▲柿岡第1～3号墳の空中写真と復元図



都市計画基本図に等高線図(等高線間隔0.5m)を合成



地籍図に等高線図(等高線間隔0.5m)を合成



USA-R1070-52(昭和23年3月2日撮影)



柿岡西町古墳復元図

※等高線図は、地理院タイル(標高タイル)を谷謙二開発「Web等高線メーカー」サイトで作成

▲柿岡第4号墳(柿岡西町古墳)の空中写真と復元図

# 佐久上ノ内遺跡の「豪族居館」

柿岡古墳群の前方後円墳や前方後方墳に埋葬される「王」は、どこに住んでいたのでしょうか。それを解く手がかりが、佐自塚古墳近くの佐久上ノ内遺跡で見つかっています。

平成25年、農道建設に伴い発掘調査を行ったところ、幅3m前後で深さ1mほどある古墳時代前期の溝を発見しました。発掘できたのは東西方向と南北方向の一部でしたが、航空写真を見ると、東西方向の溝の延長線上に黒い部分が続き、そして南に向かって直角に曲がっています。この黒い部分は、考古学では「ソイルマーク」と呼ばれるもので、地下に遺跡があるために土壌の乾燥状態が異なり、それが反映されたものと考えられます。

このソイルマークを参考にすると、東西70m、南北50m以上の範囲を溝が堀のように方形に囲んでいたこととなります。このような溝一堀の区画は古墳時代の一般集落では珍しいもので、王が住んでいた「居館」の可能性が高く、石岡市では初めての発見になります。

佐自塚古墳では、埋葬施設の上から高杯と呼ばれる土器が出土しています。土器の形や、出土した場所を考えると、埋葬時にお供えをしたときのものと考えられます。

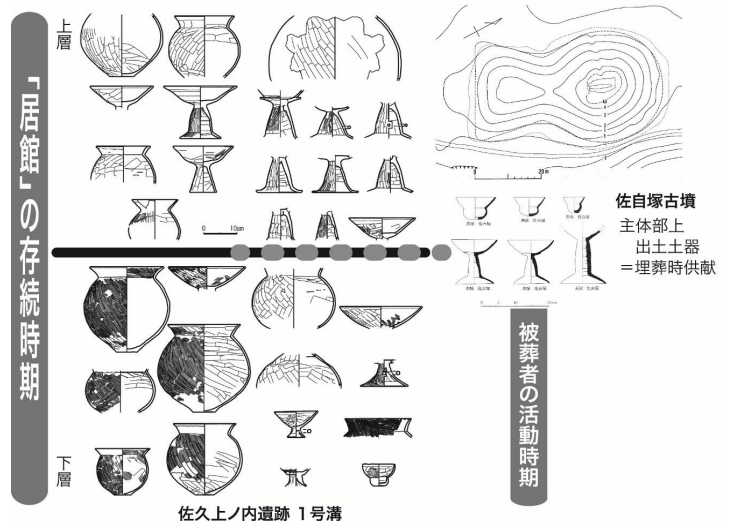
一方、佐久上ノ内遺跡の溝底からは、古墳時代前期の土器がまとまって出土しました。また、上層からは古墳時代中期の土器が出土しています。したがって、古墳時代前期に溝が掘られ、中期には埋まったと考えることができます。佐自塚古墳の土器の年代は、溝の下層土器と上層土器の間に位置づけられるものでした。

つまり、佐自塚古墳で埋葬が行われ、お供えをしたときに佐久上ノ内遺跡の溝は機能していて、被葬者の活動時期は溝一居館の存続時期と重複することになります。そして、佐自塚古墳と佐久上ノ内遺跡の距離が、わずか700mということを見ると、佐自塚古墳の被葬者一王の居館こそが佐久上ノ内遺跡と特定することも可能となります。

古墳から被葬者の名前を書いた墓誌が出土することはごく一部の新しい古墳を除いてないため、被葬者が誰なのか、どこに住んでいたのかを知ることは非常に難しい問題です。佐自塚古墳と佐久上ノ内遺跡は、考古学的な所見から、古墳と居館のセット関係がわかる極めて貴重な事例と言えます。



▲遺跡の航空写真（写真上が北）  
溝の延長線上に黒い部分が続いている。



佐久上ノ内遺跡 1号溝

# 柿岡古墳群の「空白期」

佐久上ノ内遺跡の居館の溝が埋まった頃を境に、柿岡古墳群における前方後円墳や前方後円墳の築造が途切れます。入れ替わるように恋瀬川下流の高浜地区に「舟塚山古墳」が出現します。西暦400年頃の出来事です。

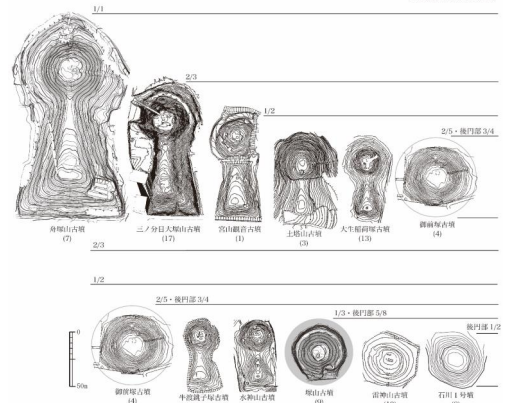
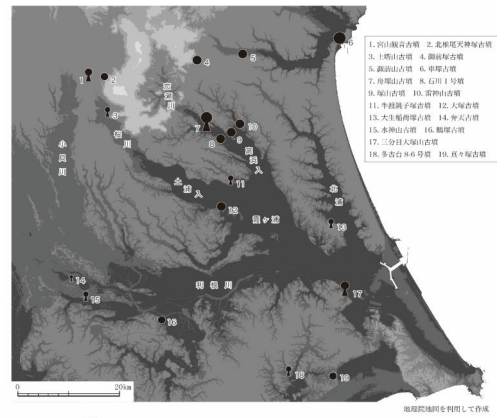
墳丘長186mという佐自塚古墳の3倍以上になる舟塚山古墳の規模はもちろん、注目されるのは同じ時期の前方後円墳に限られる点です。しかもその限られた前方後円墳は、舟塚山古墳を縮小した形(「舟塚山型」)をしています。その範囲は霞ヶ浦・利根川を介し、千葉県北部にまで広がります。舟塚山古墳を頂点とした広域な政治的結合「舟塚山古墳体制」です。

柿岡古墳群で再び前方後円墳が築造されるのは100年以上後。最新の埋葬方法「横穴式石室」をもつ丸山第4号墳の登場まで待たないといけません。

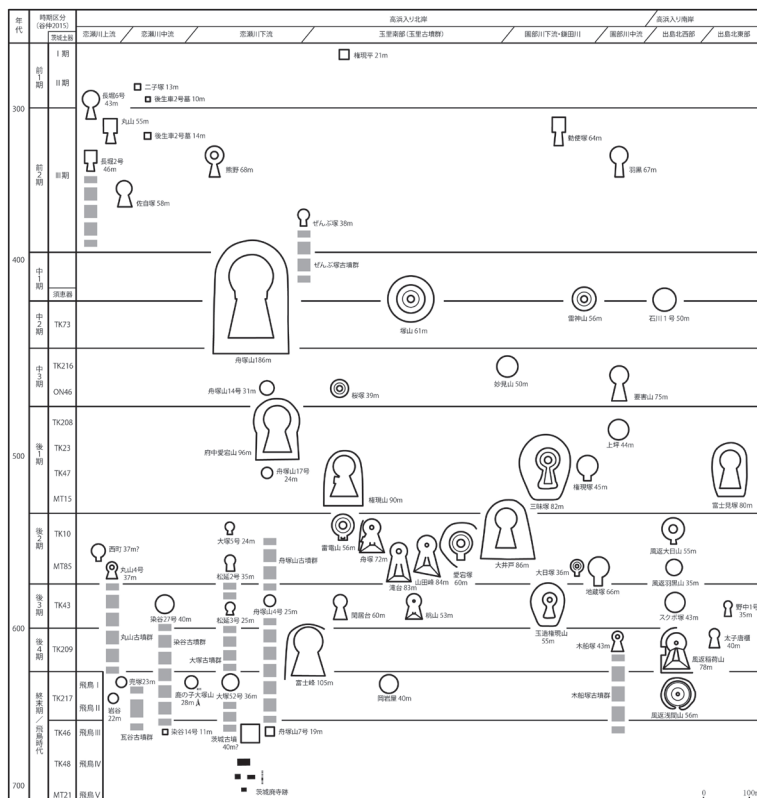
「舟塚山古墳体制」下の柿岡古墳群は、「空白期」だったのでしょか。

しかし、柿岡池下遺跡をはじめ集落は確認されていますし、長堀第6号墳や第8号墳など築造された時期が不明な前方後円墳もあります。それらが「舟塚山古墳体制」下の古墳の可能性がります。

「舟塚山古墳体制」下で柿岡古墳群は、どのような役割を果たしていたのでしょうか。



▲「舟塚山型」の前方後円墳・円墳



◀霞ヶ浦高浜入りにおける主要古墳の変遷

石岡市立ふるさと歴史館第34回企画展

## 柿岡古墳群

令和5年10月4日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195 石岡市柿岡5680-1

TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016 石岡市総社1-2-10

TEL 0299-23-2398

